

(議案第1号)

## 平成25年度事業報告について

項 目	内 容
1 世界遺産登録への取り組み状況	<p>(1) 松本市は平成18年11月30日、長野県と共同で、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に提出する世界遺産登録の国内候補を載せた「暫定一覧表（リスト）」に、国宝松本城を推薦する提案書を、文化庁に提出した。</p> <p>(2) その後、文化庁の審査で「継続審議案件」となり、平成19年12月再提案書と検討状況報告書を提出し、「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」で研究を進めることを報告し、平成20年3月、世界文化遺産特別委員会ワーキンググループのヒアリングを受けた。</p> <p>(3) また、平成20年1月、2月には、松本市長と彦根市長・犬山市長の間で今後「近世城郭群」で研究を進めることの合意が得られ、3月に事務レベル会議を実施した。</p> <p>(4) 平成20年9月には、文化庁文化審議会文化財分科会世界遺産特別委員会から「カテゴリーI b」に該当という審議結果を受けた。</p> <p>(5) 彦根市、犬山市と国宝四城近世城郭群での研究を進めるとともに、文化庁からの課題である「城郭及び城下町等の世界的視野での普遍的価値」について研究を進めてきた。</p>
2 松本城関係文化財の保護活動	<p>(1) 南・西外堀復元に向けた史跡松本城の追加指定を実施した。</p> <p>(2) 大手門枳形跡の遺構確認調査を実施し、その範囲と内容を確認した。また、調査成果については、11月3日の市民祭に合わせて現地説明会を開催し、1,363人の参加があった。</p>

	<p>(3) 開発に伴い、北門跡と武家屋敷跡の2カ所について、発掘調査を実施した。</p> <p>(4) 松本まると博物館連携事業として「戦争と平和」展を開催した。</p>
<p>3 啓発・PR活動</p>	<p>(1) 松本城検定クイズの実施 市内小学校で国宝松本城についてのクイズ形式による出前授業を行い、松本城への興味を持つきっかけづくりを行った。</p> <p>5月29日 鎌田小学校 3年生 61名 5月30日 鎌田小学校 3年生 91名 8月29日 寿小学校 3年生 170名 10月 2日 山辺小学校 3年生 86名 12月 6日 信大付属小学校 3年生 77名 合計4校 485名参加</p> <p>(2) 松本城・旧開智学校写生大会、展覧会への協賛 松本市教育委員会などの主催。写生大会は9月29日(日)に実施。 展覧会は平成26年1月23日(木)から28日(火)まで、応募作品532点を「井上百貨店」で展示した。</p> <p>(3) 松本城親子見学ツアーの実施 松本城に興味や関心を持つとともに、より身近に感じてもらふことを目的に、天守内各所に係る不思議や伝説的な内容を中心にした問題を、見学しながら親子一緒に解答する「国宝松本城七不思議」親子探検ツアーを実施した。</p> <p>第1回 11月 9日(土) 14組 34名 第2回 11月23日(土) 15組 42名 合計29組 76名参加</p> <p>(4) 「富岡製糸場と絹産業遺産群」見学会の実施 「国宝松本城」の世界遺産登録へ向け、実行委員会会員のより深い理解を深めるため、群馬県の</p>

	<p>「富岡製糸場と絹遺産群」の見学会を11月28日（木）に実施。21名の参加者が、平成26年度の世界遺産登録を目指す「富岡製糸場と絹遺産群」を見学した。午前中に「高山社跡（蚕の飼育法“清温育”を確立・普及した拠点）」を見学、引き続き「富岡製糸場」に移動し、案内ボランティアによる施設見学及び、富岡市世界遺産まちづくり部富岡製糸場課結城課長補佐による「富岡市の世界遺産登録への取り組み」の説明をお聞きした。</p> <p>(5) 「世界遺産フォーラム in 松本」を開催  2月22日（土）に「国宝松本城」の世界遺産登録に向けた取り組みを考える「世界遺産フォーラム in 松本」をMウイングで300名が参加し開催した。基調講演を第8代ユネスコ事務局長の松浦晃一郎と名古屋工業大学大学院教授麓和善氏の2氏にお願いし、パネルディスカッションでは昨年講演をいただいた西村幸夫氏（日本イコモス国内委員会委員長）をコーディネーターに松浦氏、麓氏を含む計6名の専門家による討論を行い、世界遺産登録への方向性と世界遺産にふさわしい価値を広くアピールする方法を探った。犬山市・彦根市からも参加。</p> <p>(6) 松本城・旧開智学校絵画展優秀作品展示会主催  1月に実施した展覧会の中から、特選・金賞・銀賞・銅賞に選ばれた54点を「八十二銀行松本営業部ギャラリー（大名町）」で、3月8日（土）から4月4日（金）まで展示した。</p>
<p>4 世界遺産保護、文化財保護活動との協力</p>	<p>(1) ICOMOS（国際記念物遺跡会議）へ会員としての協力</p> <p>(2) 日本ユネスコ協会連盟の運動への協力</p>

<p>5 世界遺産にかかわる調査、研究活動</p>	<p>(1) 2013年3月に設立した(仮称)国宝四城世界遺産登録推進会議準備(3回)を及び専門家によるワーキンググループ(2回)を開催し調査研究を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回準備会 5月12日(犬山市)</li> <li>・第3回準備会 10月16日(彦根市)</li> <li>・第4回準備会 2月20日(松本市)</li>   <li>・第1回WG 7月3日(東京都)</li> <li>・第2回WG 8月14日(東京都)</li> </ul> <p>(2) ICOMOS、UNESCO(国連教育科学文化機関)等関係団体の動向調査、情報収集</p> <p>ア 2012年(平成24年)6月24日～7月6日ロシアのサンクトペテルブルグにおいて第36回世界遺産委員会が開催された。新たに26件の遺産(文化遺産20、自然遺産5、複合遺産1)が、世界遺産リストに登録され、世界遺産の数は962件となった。(、文化遺産745件、自然遺産188件、複合遺産29件)。</p> <p>イ 2012年8月から9月にかけて、ICOMOSの調査団が、富士山と鎌倉に入り、推薦資産を訪れた。2013年(平成25年)5月頃にICOMOSから評価に関する発表があり、6月下旬の世界遺産委員会で登録可否が審議される。</p> <p>ウ 2013年1月、日本政府は「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産へ推薦されることが決定した。同年夏頃、ICOMOSの現地視察が実施される予定となった。</p> <p>エ 近年、世界遺産の新規記載数を極力抑制し、専門的な評価を厳格に行う傾向にあり、新規記載は、厳しくなっている。</p>
---------------------------	--

オ 世界遺産条約40周年記念事業

2012年11月6～8日、60カ国から560人余りが参加し「世界遺産条約採択40周年記念最終会合」が京都で、日本政府主催（外務省、文化庁、環境省及び林野庁の共催）のもと、UNESCO世界遺産センターの協力を得て、開催された。11月8日の最終日に採択された「京都ビジョン」には、世界規模での財源確保、遺産と持続可能な開発を支援する経験や知識の共有、紛争や災害などの脅威に対する責任の分担など、7項目にわたる提言が盛り込まれた。

(3) 国内他地域の動向、情報収集

ア 「国立西洋美術館・本館」（東京都）

フランスをはじめ6カ国で記載を目指す、「ル・コルビジェの建築と都市計画」には、22の構成遺産の中に国立西洋美術館・本館（東京都）が含まれ、第33回世界遺産委員会でその基本的意義は認められたものの20世紀の巨匠建築家により大陸、地域を跨る構成遺産群として、顕著な普遍的価値を証明することや共同管理計画の必要性などの具体的な課題を付され登録に至らず「情報照会（※1）」の決議がなされた。

その決議を踏まえ、「ル・コルビジェの建築作品ー近代建築運動への顕著な貢献ー」に変更し、構成遺産を3遺産減らし19資産とし、2011年2月に追加情報を提出した。同年5月ICMOSにより「不記載」（※2）の勧告が行われ、6月の世界遺産委員会で「記載延期」（※3）と決議された。24年度大きな動きはなかった。

(※1) 情報照会・・・世界遺産としての顕著な普遍的な価値があることは、証明されているが、補足情報が必要。

(※2) 不記載・・・記載にふさわしくないもの。

(※3) 記載延期・・・より綿密な調査や推薦書の本質的

な改定が必要なもの。

イ 「平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」（岩手県）

日本政府は、世界遺産条約関係省庁連絡会議において、「平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群一」では、すでに世界遺産として登録されている中尊寺や毛越寺等の資産に加え、柳之御所遺跡跡等を新たに加える拡張遺産登録の申請を行うこととなった。そのため、「平泉」拡張申請のために世界遺産暫定一覧表へ追加記載することが決定された。

ウ 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」（長崎県）

25年1月22日、中村法道長崎県知事をはじめ、蒲島郁夫熊本県知事や関係6市2町の市長・町長は、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の推薦書原案を、下村博文文部科学大臣に提出しました。併せて、世界遺産登録の実現に向け、平成25年度に国からユネスコへの推薦を決定していただくことなどを要望しました。

<長野県内>

ア 「善光寺と門前町」

提案書作成にあたり専門分野の有識者によるワーキンググループを編成し、信仰資産では他と類似するため、信仰を核とした寺院・宿坊群・仲見世・門前を有する「生きている善光寺門前町」というコンセプトに集約し、平成19年12月、資産の名称を「善光寺と門前町」に変更して再提案書と検討状況報告書を提出した。結果は、カテゴリーI bに該当

○ 指摘課題への対応及び動向

「世界遺産登録を進める会」（事務局：商工会議所）と市教委で、詳細研究等を進めている。

当面、大勸進、大本願、宿坊群の国の重要伝統的建造物群（重伝建）保存地区選定に向けて取り組む予定。

推進役を進める会と市教委では、今後の調査研究の取り組みについて、「近世寺社と門前町関連の文化遺産」の観点から学術的な詳細研究を進めていく予定。また、重伝建保存地区選定に向けては、今後、地域住民の合意形成を図った上で、文化庁と協議する予定。

現在の課題としては、門前町の範囲をどのように定義するのか、また門前町における構成資産がどの程度あるのかを明確にする必要がある。さらに、世界的な視点からみた門前町の独自性、代表性など普遍的な価値を比較研究し、その価値の向上に向けた維持保全計画を定める必要がある。

#### イ 「妻籠宿・馬籠宿と中山道」

平成19年3月南木曾町と中津川市は、両市町にまたがる資産構成内容を検討し、歴史的人物や文学作品等も視野に入れ、共同で再提案することに合意し、同年12月資産の名称を「妻籠宿・馬籠宿と中山道－『夜明け前』の世界－」に変更し両県と共同で再提案書等を提出した。結果は、カテゴリーI bに該当

#### ○ 指摘課題への対応及び動向

木曾郡の全町村、教育委員会で構成する「木曾地区遺産保護活用推進協議会」を設立し、今後の対応を検討する。平成22年2月に講演会「世界遺産の基本的な方向について」を開催し、地域住民の意識高揚を図った。平成23年4月に中津川市と今後の取り組みについて協議を行い、市内峠地区で重伝建を目指す動きがあり、南木曾町との共通認識が深まり行動連携に向け良好な関係を

構築してきている。

#### ウ 「岡谷の製糸遺産」

平成19年9月、岡谷市は「日本製糸業近代化遺産～日本の近代化をリードし、世界に羽ばたいた糸都岡谷の製糸遺産～」を新規に文化庁へ提案書を提出した。結果は、カテゴリーⅡに該当

#### ○ 指摘課題への対応及び動向

市教委内部で、構成資産の見直しと今後の対応を検討中。近代化遺産及び製糸資産を活用した街づくりをすすめるための事業を継続実施している。姉妹都市である富岡市と交流を深めており、市が所有するフランス式繰糸機（そうしき）を富岡市に寄託するなど新たな相互連携方法や交流事業を具体化している。今後、富岡市とガイドの交流等の市民レベルの活動を企画する予定。

※岡谷市教育委員会蚕糸博物館の学芸員を1名、23年度・24年度と富岡市へ通年派遣

#### エ 「南アルプス世界自然遺産登録推進協議会」

平成20年4月、伊那市において推進協議会設立後初めての総会を開催し、世界自然遺産登録に向けた第一歩として、ジオパーク（※1）への取り組みを推進していくことを決定した。（長野、山梨、静岡3県10市町村で構成）

同年7月に南アルプス中央構造地帯（長野県側）が、日本ジオパークに認定され、教育や観光の目玉となっている。

また、同時に、平成15年・16年に実施した世界自然遺産登録に向けての学術調査結果をもとに、協議会は、「ユネスコエコパーク」（※2）の登録も目指すこととなった。

なお、世界自然遺産（静岡市）、ジオパーク（伊



那市)、エコパーク(南アルプス市)がそれぞれ事務局を担当している。伊那市では25年4月から「世界自然遺産登録推進室」を総務部内に設置予定。

(※1) 世界ジオパークとは、2004年にUNESCOの支援で設立され、世界ジオパークネットワークが認定するジオ(地球)に関わる様々な地質遺産、(例えば、地層、岩石、地形、火山、断層など)を含む自然豊かな公園。地球活動に関わる遺産を保護し研究に活用するとともに、科学教育等の場として、またジオツーリズムをはじめとする新たな観光資源として、地域の振興・活性化を図るのが目的。欧州や中国など27カ国で、88カ所が認定されている。日本には島原半島や山陰海岸など5カ所がある。

(※2) エコパークとは、生物多様性の保全、持続可能な開発、学術研究支援を目的として、1976年(昭和51年)にUNESCOが開始した制度。世界遺産が「手つかずの自然を守る」ことが原則なのに対し、「生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)」が目的。世界の登録数は、114カ国580地域あり、国内では、屋久島、志賀高原、白山、大台ヶ原・大峰山の4地域が1980年に指定されている

オ 「信州黒耀石原産地遺跡群の複合遺産登録にむけた取組み」

信州黒耀石原産地遺跡群は霧ヶ峰から北八ヶ岳の一带にあり、縄文時代ここで採掘された黒耀石が関西から北東北の広範囲に流通していた。未指定の採掘遺跡、石器制作遺跡、石器流通の中継遺跡を含め、現在一か所が史跡指定されている。将来に世界遺産暫定リスト公募に向け活動が始まっている。また、長和町では、国際ワークショップを実施して海外にも知られるようになっていく。